特別寄稿

～若い世代の防犯ボランティア活動への取り組み～

千葉科学大学の地域防犯活動への取り組み

千葉科学大学　危機管理学部　スターラビッツ隊長　丸山　寛正

私たち千葉科学大学の学生警察支援サークル「スターラビッツ」は、日本で唯一の危機管理学部を持つ千葉科学大学にある自主防犯パトロールのサークルです。サークル名の由来は、夜行性のウサギは、どんな小さな音も聞き漏らさずに情報を集める大きな耳を持ち、俊敏性があり、時には周囲を見渡す注意深さを持っていることから、ウサギの持つ習性や行動が安全パトロールを行う上での基本となり、私たちもウサギのようにパトロール活動を行いたいという意味からきています。

このサークルは平成18年５月18日に発足して以来、今年で５年目を迎えます。

発足のきっかけとしては、平成18年に銚子警察署の当時の署長さんから「危機管理を学んでいる学生さん達に、ある意味危機の最前線にいる警察が経験を教え、ランクアップしてもらいたい」との提案があり、千葉科学大学としても防犯に対する志が高い、将来的に警察官、防犯設備会社など危機管理に携わった仕事を志望する学生が多いことや、銚子という地に大学が建てられているのだから、治安を通じて地元の人々との交流をはかり、自分達は地域のために何かできないかと考えて申し出を受けたのがきっかけとなります。

この活動は「官(警察)・学(大学)・大学生の３者の連携」という形で始まりました。私たちが通っている大学の理念の中には「社会に貢献」というものがあります。危機管理という意識を持って入学をする学生が多いことから、単なる学問的研究だけにとどまらず、地域社会との関わりを持った実践的な教育を行うという方針があり、警察や消防と協力して地域住民の安全を守り、様々なことを学ぶことで、はかり知れない知識や経験を積むことが出来ると考えました。そのことが、本人の成長にも役立つということから防犯という意識の高い学生からなる自主防犯団体「スターラビッツ」が結成され、平成18年５月18日に官(警察)・学(大学)と「覚書」という形で調印を結び、３つの連携を取りながら活動を始めました。

覚書は、相互理解に基づく高い信頼関係が基本となっています。協力の目的は、安全で安心の町づくりで、市民の自立と相互扶助の精神に基づく有効な地域コミュニティーを作ろうということを共通認識とし、具体的には、警察から「○○地点で犯罪が多発している。」「最近、○○付近で、不審者が出没しているから、ちょっと心がけてパトロールしてみてください。」といった犯罪情報を提供していただき、そこを私たちスターラビッツに所属する学生たちが重点的に回る犯罪抑止型パトロールが一つの形です。もう一つは、不審者や車上荒らしなどの犯罪を目認、あるいは情報入手した際に警察に伝えて犯人検挙につなげる形のパトロールです。スターラビッツは警察に従属するわけではなく、学生の本人の身分を守った上で、対等の関係として活動をしています。

隊員数は、昨年までは８人と少人数の有志のある方だけのサークルでしたが、大学のカリキュラムの方針によりボランティアの講義で活動が考慮されるようになり、現在の隊員数は危機管理学部、薬学部の１～４年生までで23人です。警察官や救急救命士、薬剤師などと、将来目指す方向は隊員によって様々ですが、隊員一人一人が地域のボランティア活動の一環である自主防犯パトロールに対する熱意は皆一緒です。

普段は各自が履修している講義の違いにより、なかなか全員が揃うことは難しい状態ですが、講義などが無く時間が空いている隊員が毎週金曜日(第三金曜日を除く)と第三土曜日に集まり、週に一度のパトロールを行います。参加者が三人以下の場合は、隊員の安全を考えパトロールを実施しません。毎週金曜日は夕方の６時半から地元の銚子駅周辺から市内商店街を通り、銚子電鉄観音駅までの範囲での自主防犯パトロールのほか、銚子駅前駐輪場の自転車整理、パトロールルートの清掃活動を行い、また第三土曜日の夕方５時からはスターラビッツの立ち寄り所を巡回して、地域の方々との情報交換や交流を図りながらパトロールを行っています。この立ち寄り所というのは活動地域内の５ヶ所の店舗、コンビニや土産物店や幼稚園などにお願いして、お店の方々に許可を頂き「スターラビッツ立ち寄り所」のステッカーを貼らせて頂いている場所の事です。また、警察の方や銚子市内にある防犯団体の方と協議して行うラストフライデーパトロール、通称「ＬＦＰ」の参加、銚子警察署の生活安全課の方々と連携をし、警察署主催の柔術の早朝練習に参加したり、振り込め詐欺防止のチラシの街頭配布を警察官の方々と共に行うなど、警察署主催の行事にも積極的に参加させて頂いています。

今後とも警察や関係団体と連携しながら情報を共有し、学生の本分である学業と伴せて安全で安心な地域づくりに向けて貢献していきたいと私たちスターラビッツは考えています。